

環境学習の推進状況と課題

<平成21年度 学校での環境学習に関するアンケートの結果概要>

(環境政策課とりまとめ)

● 実施目的

各学校において環境学習は、「学校教育の指針」に基づき、「持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる人づくり」として、各教科や総合的な学習の時間等と関連づけ、教育活動全体を通じて推進されている。

学校での環境学習の実施時間数や学習の分野など実施状況を把握することで、県における「滋賀県環境学習の推進に関する条例」に基づく、施策の検討にあたっての基礎資料とするとともに、教育委員会や各学校においても環境学習の取組を検討する際の参考となることを目的として実施した。

● 実施方法

調査表のエクセルファイルを滋賀県内のすべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に対して配布し、回答データを入力したファイルを回収した。

なお、市町立の小学校、中学校については県教育委員会から市町教育委員会を通じて調査表の配布、回収を行った。また、県立の中学校、高等学校、特別支援学校については県教育委員会から調査表の配布、回収を行った。

● 実施対象

(ア)小学校 232校：国立1校、市町立230校、私立1校（休校中の学校を除く）

(イ)中学校 106校：国立1校、県立3校、市町立97校、私立5校（休校中の学校を除く）

(ウ)全日制高等学校 55校：県立46校、私立9校

(エ)定時制高等学校 7校：県立6校、私立1校

(オ)通信制高等学校 4校：県立1校、私立3校

(カ)特別支援学校 15校：国立1校、県立14校

● 実施期間

平成21年11月26日から平成22年1月15日まで

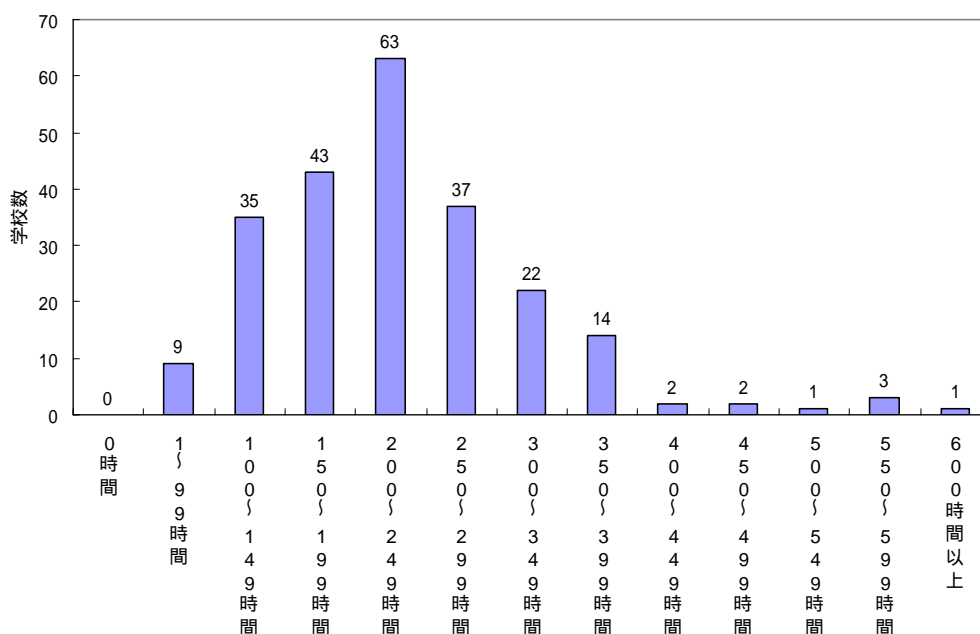
● 回収率

100%

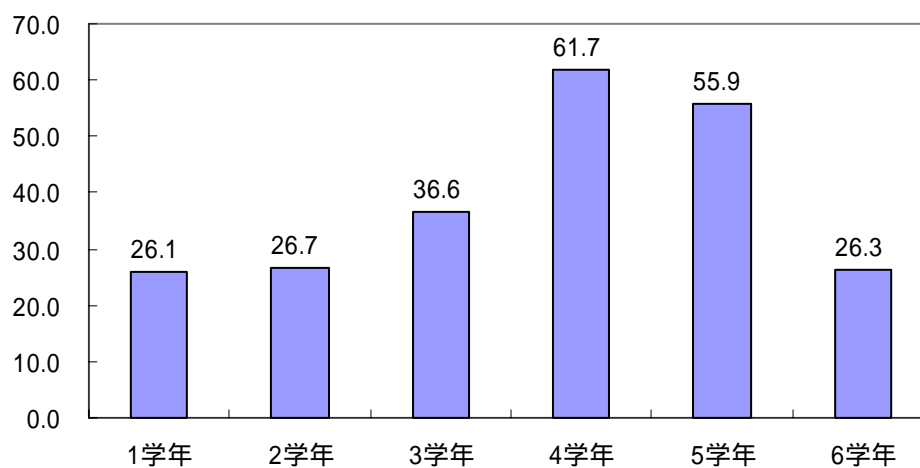
小学校

1. 環境学習の実施時間数

- 各学校の環境学習の実施時間数合計による学校数の分布は下図のとおりで、年間 200 時間～249 時間が 63 校と最も多くなっている。一校あたりの平均実施時間数は 233.2 時間。

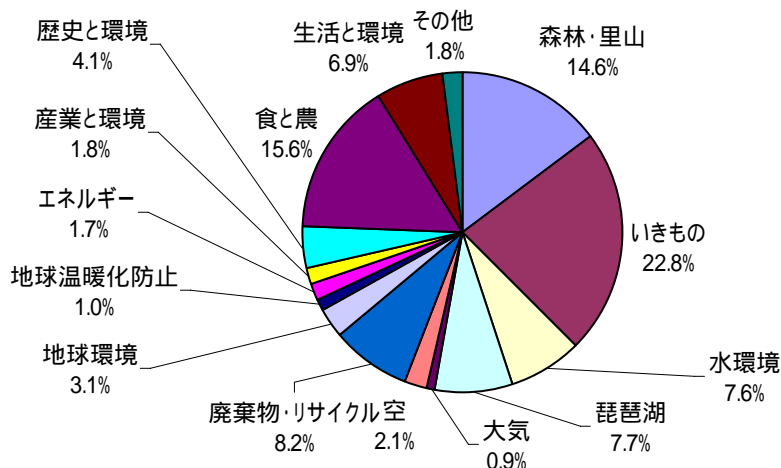


- 一校あたりの平均実施時間数の学年ごとの内訳は下図のとおりで、4 学年が 61.7 時間と最も多く、次いで 5 学年の 55.9 時間となっている。



2. 環境学習の実施分野と実施教科

- 環境学習の分野ごとの実施時間の割合は下図のとおりで、「いきもの」が 53.3 時間（22.8%）と最も多く、以下「食と農」の 36.4 時間（15.6%）、「森林・里山」の 34.1 時間（14.6%）などとなっている。

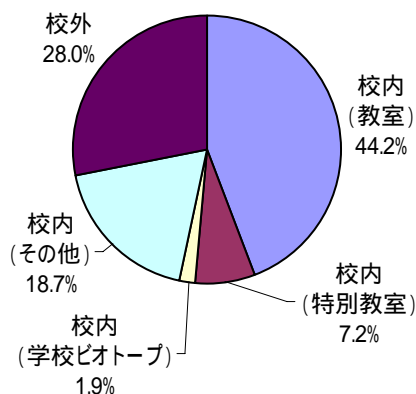


- 環境学習を実施した教科の割合は下表のとおりで、総合的な学習の時間が 68.6 時間（29.4%）と最も多くなっている。また、1 学年、2 学年では環境学習を実施した時間の 8 割以上（1 学年-88.8%、2 学年-87.0%）が生活科であった。

生活	理科	社会	総合的な学習	その他の教科	教科外の時間 (特活、道徳、行事等)	合計
46.4	47.8	38.5	68.6	14.2	17.7	233.2
19.9%	20.5%	16.5%	29.4%	6.1%	7.6%	100.0%

3. 環境学習の実施場所

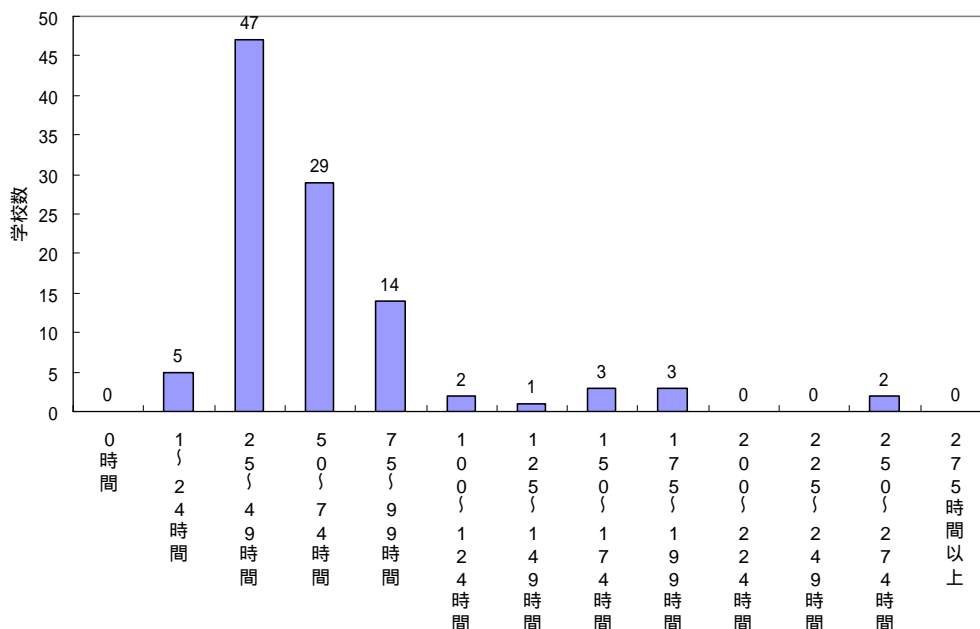
- 環境学習の実施場所の割合は下図のとおりで、「校内（教室）」が 44.2% で最も多く、次いで「校外」の 28.0% となっている。



中学校

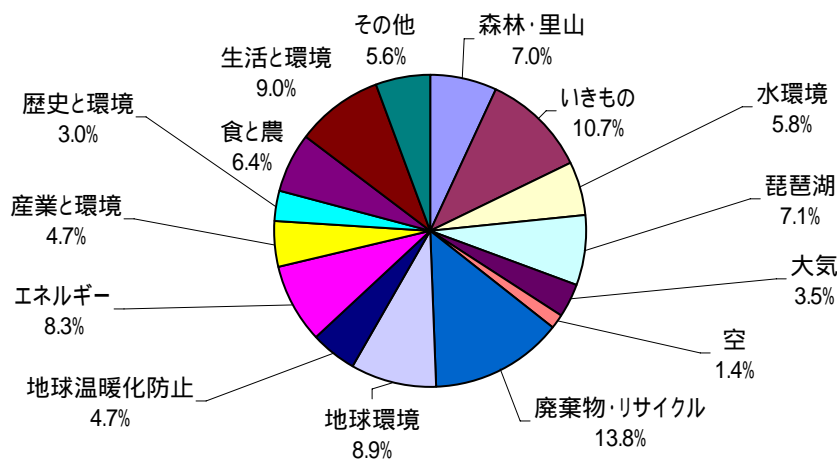
1. 環境学習の実施時間数

- 各学校の環境学習の実施時間数合計による学校数の分布は下図のとおりで、年間 25 時間～49 時間が 47 校と最も多くなっている。一校あたりの平均実施時間数は 63.1 時間。一校あたりの平均実施時間数の学年による大きな差は見られない。



2. 環境学習の実施分野と実施教科

- 環境学習の分野ごとの実施時間の割合は下図のとおりで、「廃棄物・リサイクル」が 8.7 時間 (13.8%) と最も多く、次いで「いきもの」の 6.7 時間 (10.7%) となっている。

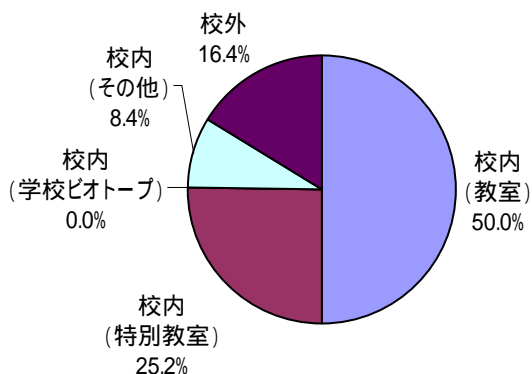


- 環境学習を実施した教科の割合は下表のとおりで、理科が 17.2 時間 (27.2%) と最も多くなっており、次いで総合的な学習の時間が 12.3 時間 (19.5%) となっている。

教科	社会	技術・家庭	総合的な学習	その他の教科	教科外の時間 (特活、道徳、行事等)	合計
理科	11.3	9.3	12.3	5.5	7.6	63.1
	17.9%	14.7%	19.5%	8.6%	12.0%	100.0%

3. 環境学習の実施場所

- 環境学習の実施場所の割合は下図のとおりで、「校内（教室）」が50.0%で最も多く、次いで「校内（特別教室）」の25.2%となっている。

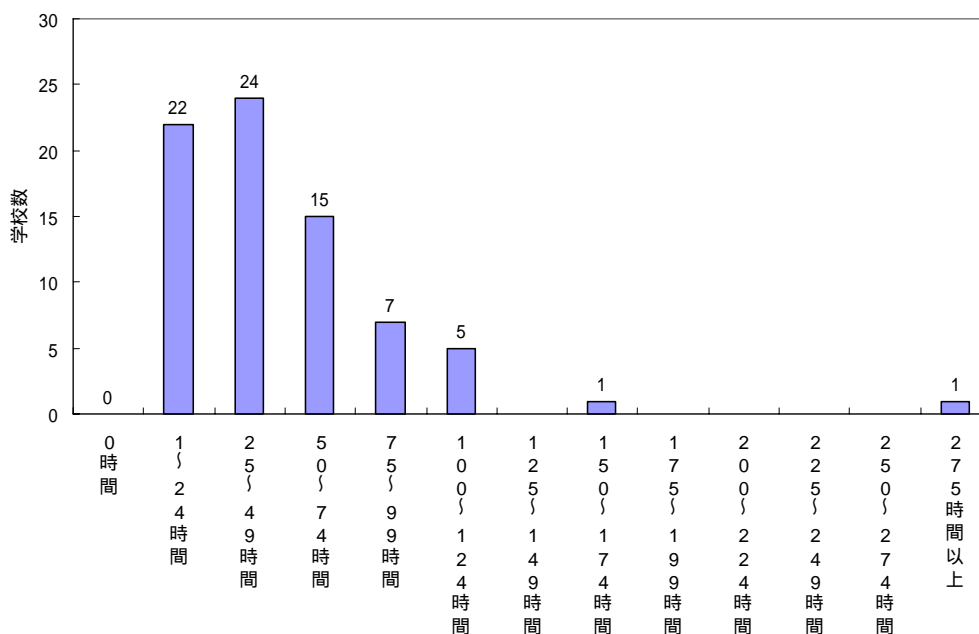


高等学校（全日制）

学科や専攻ごとの回答単位を一つの学校数としてカウントしているため、調査対象学校数(55校)と整合しない。

1. 環境学習の実施時間数

- 各学校の環境学習の実施時間数合計による学校数の分布は下図のとおりで、年間25時間～49時間が24校と最も多くなっている。



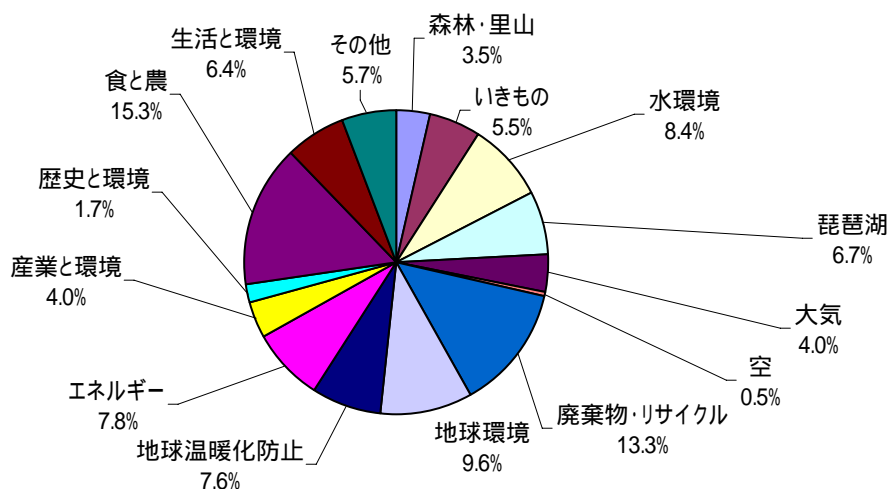
- 学科区分ごとの一校あたりの平均実施時間数は下表のとおりで、34.1時間から75.5時間まで学科区分により差がある。
すべての学科を合計した平均実施時間数は52.5時間。

学科区分	平均実施時間数
普通	41.0
専門(職業系)	75.5
専門(普通系)	34.1
総合	73.1
計	52.5

学科区分の内訳
 普通 普通科
 専門(職業系) 農業科、工業科、商業科、家庭科、福祉学科等
 専門(普通系) 音楽、国際、体育、美術、理数の各科
 総合 総合学科

2. 環境学習の実施分野と実施教科

- 環境学習の分野ごとの実施時間の割合は下図のとおりで、「食と農」が8.0時間(15.3%)と最も多く、以下「廃棄物・リサイクル」の7.0時間(13.3%)、「地球環境」の5.0時間(9.6%)となっている。

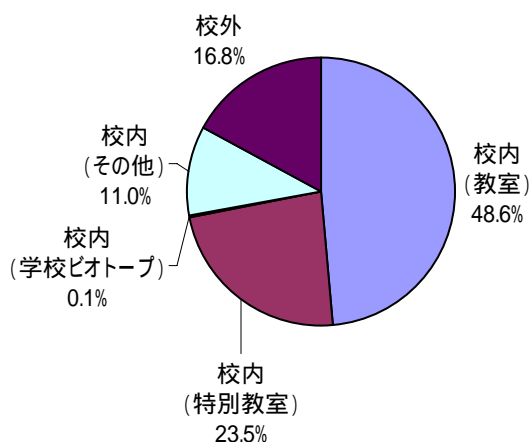


- 環境学習を実施した教科の割合は下表のとおりで、その他の教科が22.0時間(41.8%)と最も多くなっており、次いで理科が9.9時間(18.8%)となっている。

理科	公民	家庭	総合的な学習	その他の教科	教科外の時間 (特活、道徳、行事等)	合計
9.9	4.6	5.0	6.1	22.0	5.0	52.5
18.8%	8.8%	9.5%	11.6%	41.8%	9.5%	100.0%

3. 環境学習の実施場所

- 環境学習の実施場所の割合は下図のとおりで、「校内(教室)」が48.6%で最も多く、次いで「校内(特別教室)」の23.5%となっている。

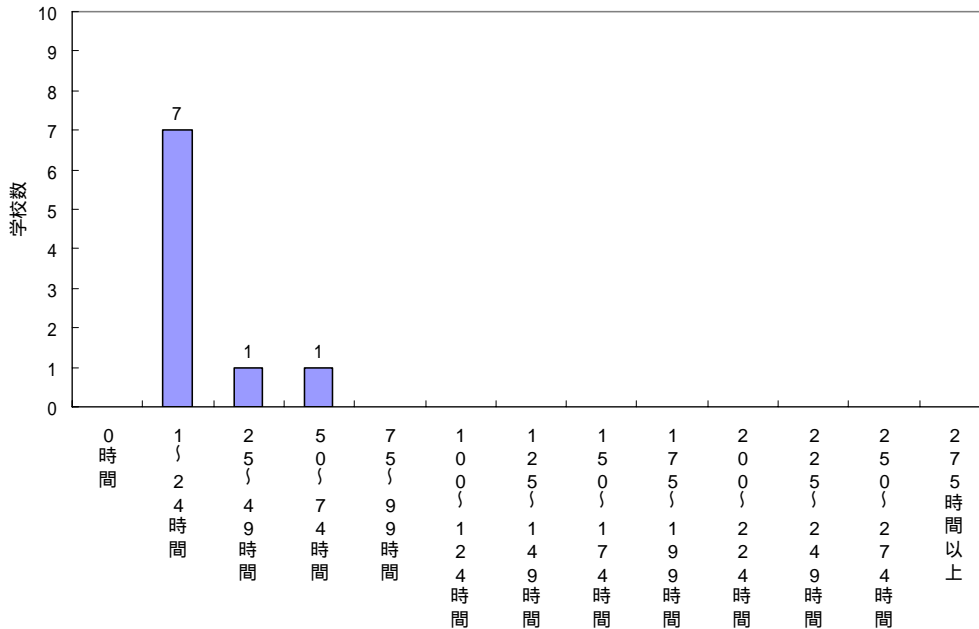


高等学校（定時制）

学科や専攻ごとの回答単位を一つの学校数としてカウントしているため、調査対象学校数（7校）と整合しない。

1. 環境学習の実施時間数

- 各学校の環境学習の実施時間数合計による学校数の分布は下図のとおりで、年間1時間～24時間が7校と最も多くなっている。一校あたりの平均実施時間数は16.9時間。

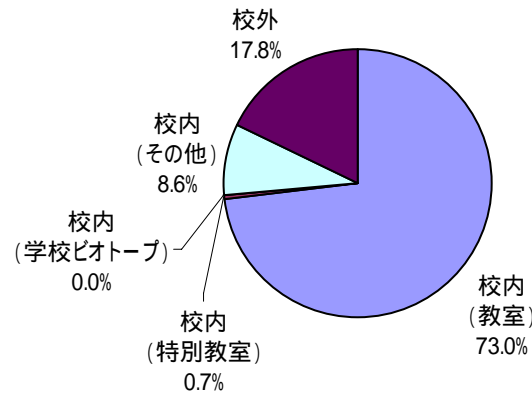


- 環境学習を実施した教科の割合は下表のとおりで、公民が 4.4 時間（26.3%）と最も多くなっており、次いで理科とその他の教科が 3.9 時間（23.0%）となっている。

教科ごとの実施時間数						
理科	公民	家庭	総合的な学習	その他の教科	教科外の時間 (特活、道徳、行事等)	合計
3.9	4.4	0.8	0.6	3.9	3.3	16.9
23.0%	26.3%	4.6%	3.3%	23.0%	19.7%	100.0%

3. 環境学習の実施場所

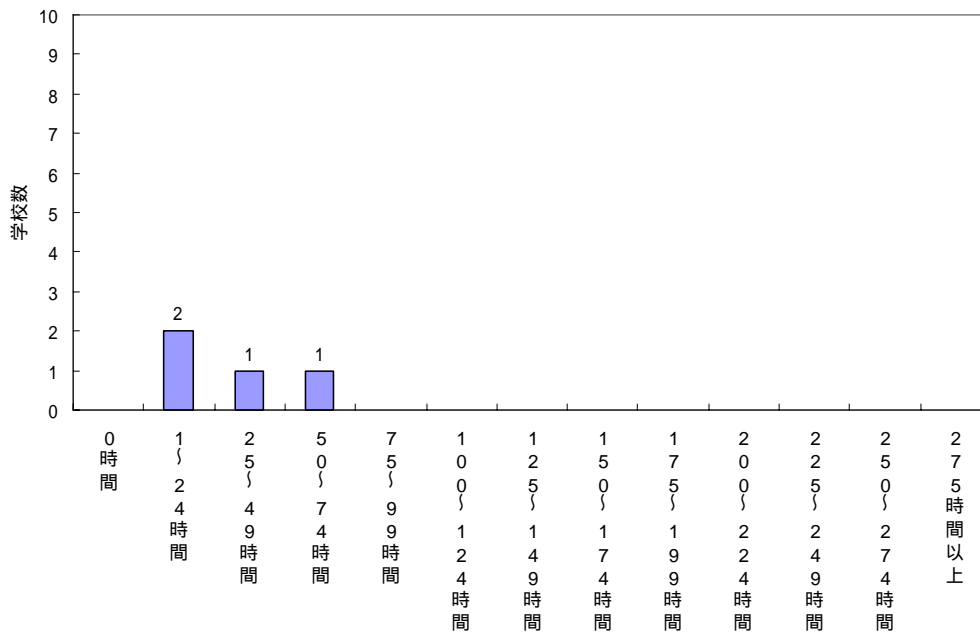
- 環境学習の実施場所の割合は下図のとおりで、「校内（教室）」が 73.0% で最も多く、次いで「校外」の 17.8% となっている。



高等学校（通信制）

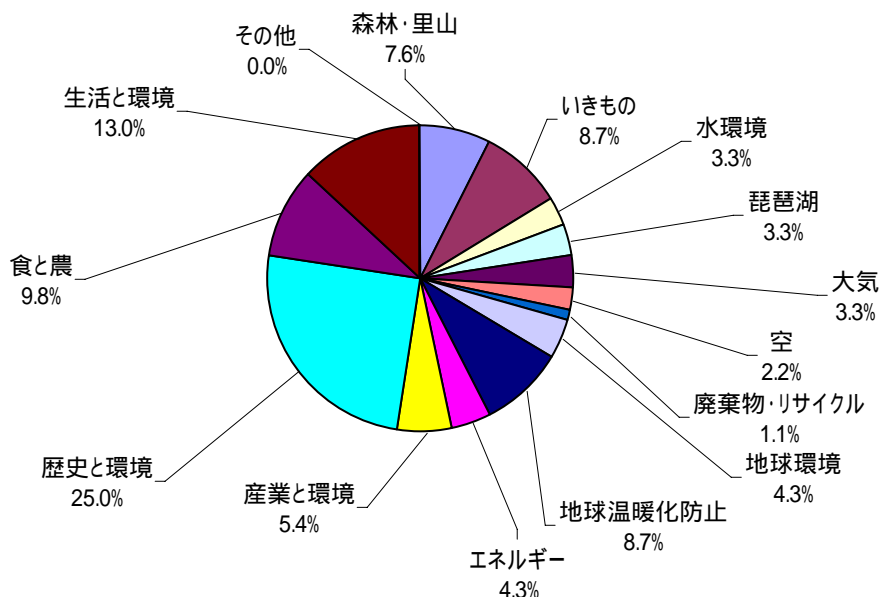
1. 環境学習の実施時間数

- 各学校の環境学習の実施時間数合計による学校数の分布は下図のとおりで、一校あたりの平均実施時間数は 23.0 時間。



2. 環境学習の実施分野と実施教科

- 環境学習の分野ごとの実施時間の割合は下図のとおりで、「歴史と環境」が 5.8 時間（25.0%）と最も多く、以下「生活と環境」の 3.0 時間（13.0%）、「食と農」の 2.3 時間（9.8%）、「となつている。

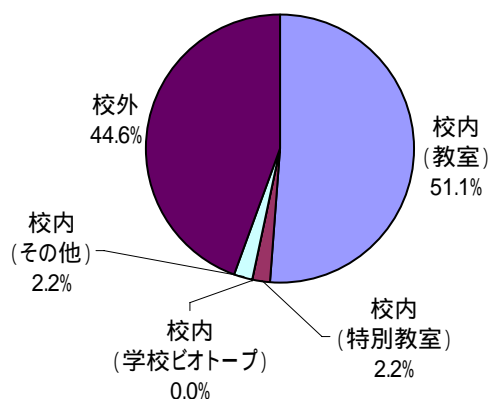


- 環境学習を実施した教科の割合は下表のとおりで、理科が 8.8 時間（38.0%）と最も多くなつており、次いでその他の教科が 6.3 時間（27.2%）となつている。

理科	公民	家庭	総合的な学習	その他の教科	教科外の時間 (特活、道徳、行事等)	合計
8.8	2.0	1.5	2.5	6.3	2.0	23.0
38.0%	8.7%	6.5%	10.9%	27.2%	8.7%	100.0%

3. 環境学習の実施場所

- 環境学習の実施場所の割合は下図のとおりで、「校内（教室）」が 51.1%で最も多く、次いで「校外」の 44.6%となつている。

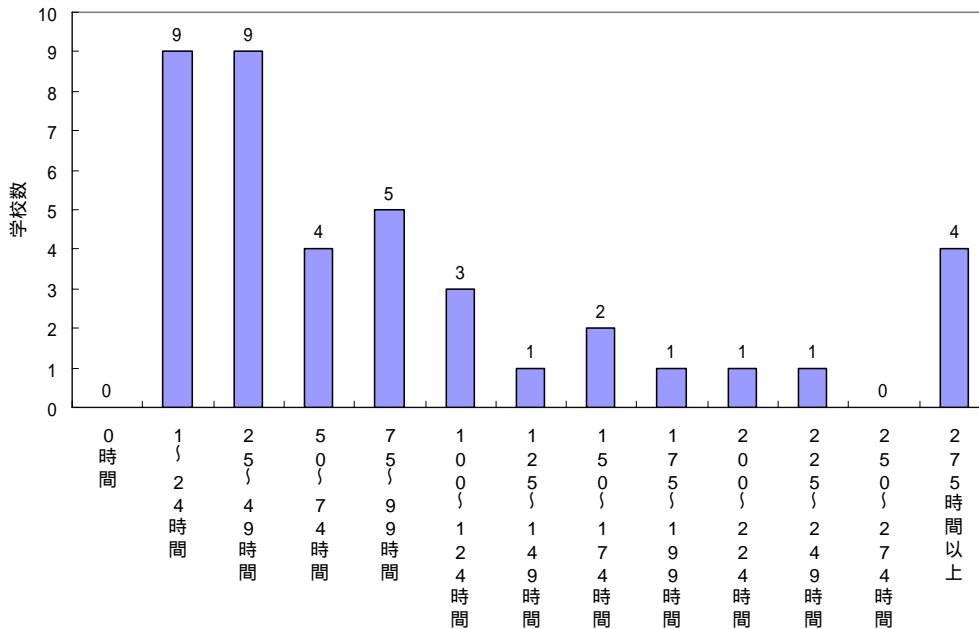


特別支援学校

小学部、中学部、高等部ごとの回答単位を一つの学校数としてカウントしているため、調査対象学校数（15校）と整合しない。

1. 環境学習の実施時間数

- 各学校の環境学習の実施時間数合計による学校数の分布は下図のとおりで、年間1時間～24時間と25時間～49時間がそれぞれ9校と最も多くなっている。

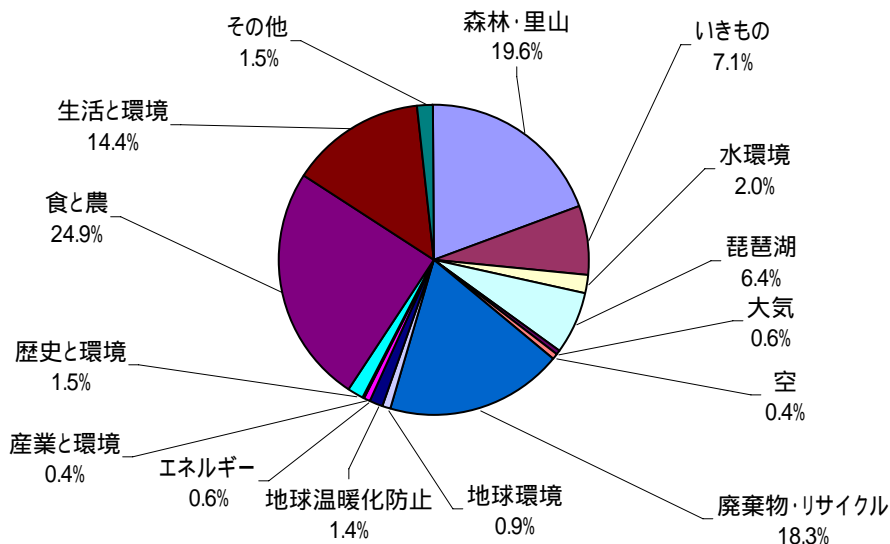


- それぞれの区分ごとの一校あたりの平均実施時間数は下表のとおり。

区分	計
小学部	141.5
中学部	76.2
高等部	132.4
計	117.1

2. 環境学習の実施分野と実施教科

- 環境学習の分野ごとの実施時間の割合は下図のとおりで、「食と農」が29.2時間(24.9%)と最も多く、以下「森林・里山」の22.9時間(19.6%)、「廃棄物・リサイクル」の21.4時間(18.3%)となっている。



- 環境学習を実施した教科の割合は下表のとおりで、小学部ではその他の教科が 57.5 時間（40.7%）と最も多くなっており、次いで教科外の時間が 49.5 時間（35.0%）となっている。
 中学部ではその他の教科が 28.3 時間（37.1%）と最も多くなっており、次いで社会が 13.3 時間（17.5%）となっている。
 高等部ではその他の教科が 80.2 時間（60.6%）と最も多くなっており、次いで教科外の時間が 31.4 時間（23.7%）となっている。

(小学部)

教科ごとの実施時間数						
生活	理科	社会	総合的な学習	その他の教科	教科外の時間 (特活、道徳、行事等)	合計
6.9	11.6	7.8	8.0	57.5	49.5	141.5
4.9%	8.2%	5.5%	5.7%	40.7%	35.0%	100.0%

(中学部)

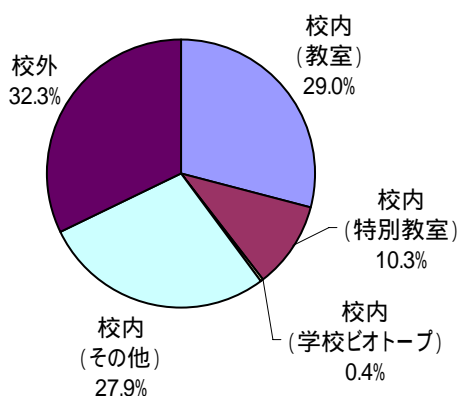
教科ごとの実施時間数						
理科	社会	技術・家庭	総合的な学習	その他の教科	教科外の時間 (特活、道徳、行事等)	合計
12.8	13.3	4.6	6.5	28.3	10.7	76.2
16.8%	17.5%	6.1%	8.6%	37.1%	14.0%	100.0%

(高等部)

教科ごとの実施時間数						
理科	公民	家庭	総合的な学習	その他の教科	教科外の時間 (特活、道徳、行事等)	合計
3.4	3.3	4.6	9.5	80.2	31.4	132.4
2.6%	2.5%	3.5%	7.2%	60.6%	23.7%	100.0%

3. 環境学習の実施場所

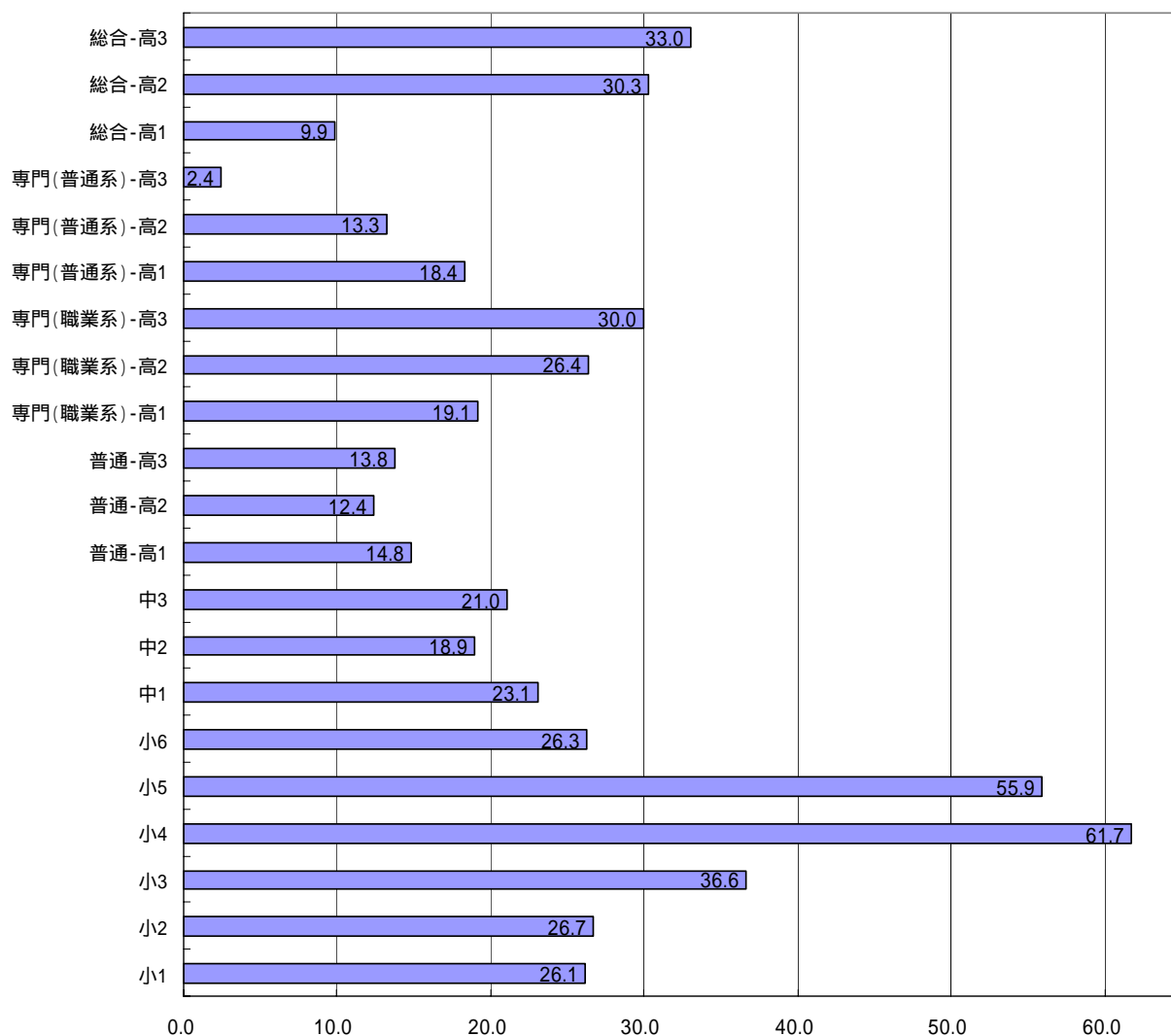
- 環境学習の実施場所の割合は下図のとおりで、「校外」が 32.3% で最も多く、次いで「校内（教室）」の 29.0% となっている。



その他

1. 学齢ごとの環境学習実施時間数

- 小学校、中学校、全日制高等学校のアンケートの結果をもとに、それぞれの学齢での環境学習の平均実施時間数をグラフにしたところ以下のとおりとなった。
このグラフから学校での環境学習の実施時間は、小学校1学年から徐々に増加し、小学校4学年の61.7時間、小学校5学年の55.9時間でピークを迎え、その後、中学校で20時間前後へと推移している。高等学校では、学科区分により実施時間に差があるものの小学校でのピークを越えることはない。



2. 学齢ごとの環境学習実施分野

- 学齢ごとの環境学習の実施分野は、小学校低学年では「森林・里山」や「いきもの」といった分野が占める割合が多く、自然と触れ合う内容が多く実施されていると考えられる。一方で学齢があがるにつれ、「水環境」や「地球環境」、「地球温暖化防止」など科学的な知識や理解が必要な分野の割合が増加しており、発達段階に応じた内容の環境学習が実施されていると言える。
- また環境学習の実施時間のピークである小学校4学年、5学年では「森林・里山(4学年-13.4時間)」、「琵琶湖(5学年-13.2時間)」、「食と農(5学年-16.1時間)」といった分野の実施時間が特に多く実施されているが、これらは「うみのこ」、「やまのこ」、「たんぼのこ」といった滋賀県が進める施策の成果であることがうかがえる。

3. 環境学習についての課題

- 「環境学習についての課題」として自由記述欄に記載された内容を整理して分類したところ、「授業時間数のかねあいで環境学習の時間を確保しにくい。」というものが 90 件（18.8%）と最も多く、次いで「学年や教科を通した体系的な環境学習の取組ができていない。」が 76 件（15.9%）、「校内や学校の周辺に自然体験ができる環境がない。」が 68 件（14.2%）などとなっている。
- また、小学校段階では環境学習の内容として自然体験的な取組が多いことから、課題としても「校内や学校の周辺に自然体験ができる環境がない。」が最も多くなっている。（小学校 269 件のうち 59 件、21.9%）

(単位:件)

課題の内容	小学校	中学校	全日制 高校	定時制 高校	通信制 高校	特別支援 学校	計
授業時間数のかねあいで環境学習の時間を確保しにくい。	30	30	28	2			90
学年や教科を通した体系的な環境学習の取組ができていない。	33	25	14			4	76
校内や学校の周辺に自然体験ができる環境がない。	59	6	3				68
環境について学んでも、実際に児童・生徒が生活の中で環境行動の実践にまでは至らない。	21	11	3				35
実験、実習を取り入れた授業を行う余裕がない。	14	5	9	1		2	31
地域で協力してもらえる人材などの情報が不足している。	16	9	3			1	29
教員間での環境学習に関する意識の差が大きい。	15	7	3				25
学習指導要領の改定を受けて、総合的な学習の時間で取り扱う内容を見直す必要がある。	10	5					15
環境学習を実施する適切な教材が不足している。	9	4	2				15
身の回りにある豊かな自然を当たり前のもにとらえ、子どもたちにそのありがたさや自然を守るといった意識が低い。	14	1					15
その他	48	15	12	3	2	0	80
計	269	118	77	6	2	7	479

<平成 21 年度 学校以外の滋賀県における 環境学習の実施状況について>

(環境政策課とりまとめ)

● 実施目的

本県の環境学習の進捗状況を把握するために、学校以外の場で様々な主体が実施する県内の環境学習に関する取組の状況を把握することを目的として以下のとおり調査を実施した。

なお、この調査では学校において児童・生徒を対象として行われる環境学習は対象としていない。

● 実施方法

調査の実施方法については、以下の調査対象に掲載された催しの開催案内や参加者募集などから環境学習に関する取組を抽出した。

● 調査対象

- (ア) 環境学習支援センターが発行している環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」
- (イ) 県広報誌「滋賀プラスワン」
- (ウ) 県内市町の発行する広報誌

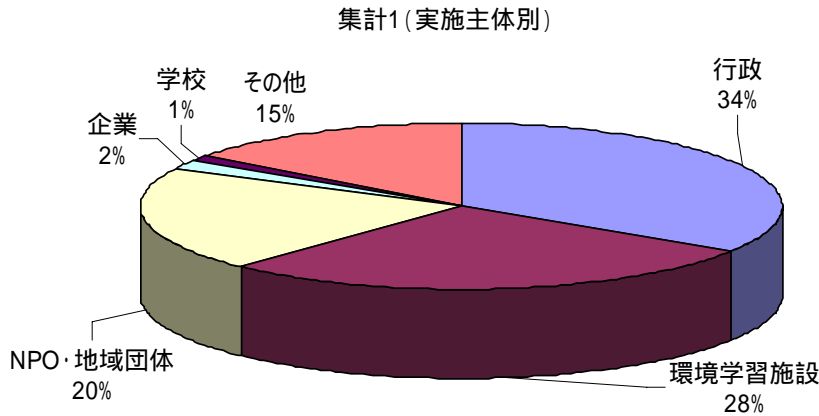
● 実施期間

平成 21 年 3 月から平成 22 年 2 月までに発行されたもの

調査結果の概要 (端数等の関係で割合には不整合が生じる箇所がある。)

(ア) 実施主体別の内訳

環境学習に関する催しの実施主体別に見ると、行政（34%）、環境学習施設（28%）、NPO・地域団体（20%）と続き、この3者で8割以上を占めている。

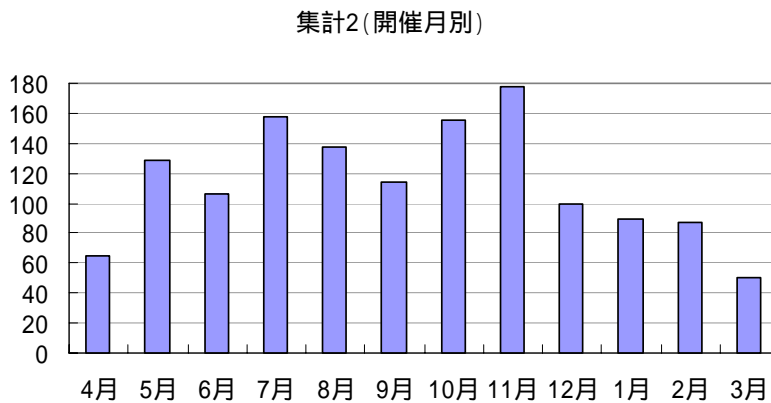


集計1(実施主体別)

実施主体区分	集計
行政	413
環境学習施設	337
NPO・地域団体	247
企業	22
学校	12
その他	179
	1,210

(イ) 開催月別の内訳

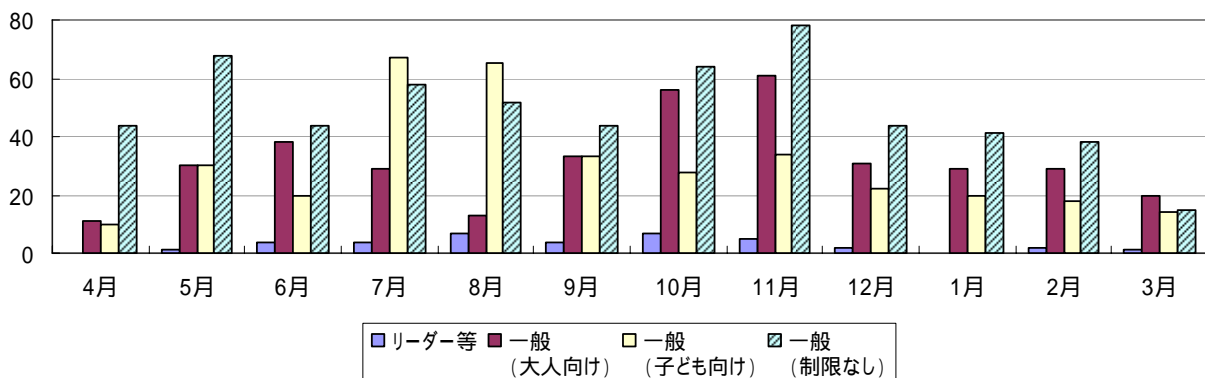
環境学習に関する催しの開催月別に見ると、7月（158件）、8月（137件）、10月（155件）、11月（178件）が多くなっているが、これは学校の夏休み期間や屋外での活動が行いやすい季節であることが理由として考えられる。



集計2(開催月別)

開催月	集計
4月	65
5月	129
6月	106
7月	158
8月	137
9月	114
10月	155
11月	178
12月	99
1月	90
2月	87
3月	50
	1,368

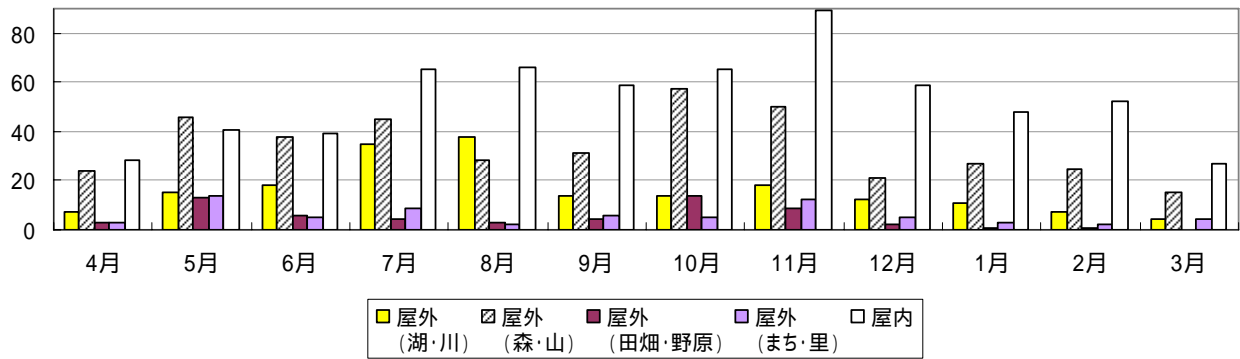
クロス集計1(開催月別×対象者別)



クロス集計1(開催月別×対象者別)

開催月	リーダー等	一般			合計
		(大人向け)	(子ども向け)	(制限なし)	
4月		11	10	44	65
5月	1	30	30	68	129
6月	4	38	20	44	106
7月	4	29	67	58	158
8月	7	13	65	52	137
9月	4	33	33	44	114
10月	7	56	28	64	155
11月	5	61	34	78	178
12月	2	31	22	44	99
1月		29	20	41	90
2月	2	29	18	38	87
3月	1	20	14	15	50
	37	380	361	590	1,368

クロス集計2(開催月別×実施場所別)



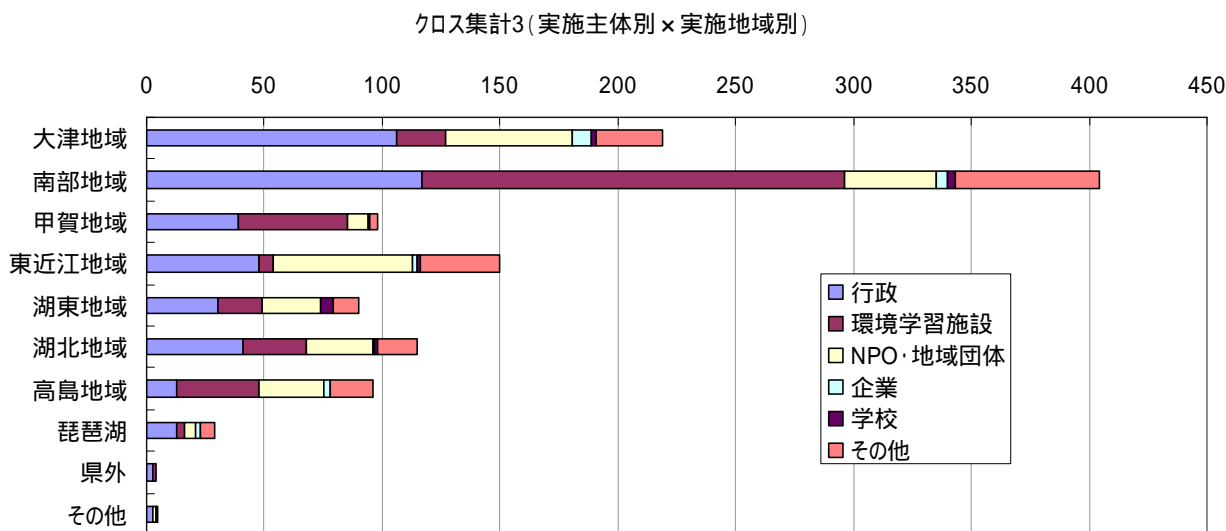
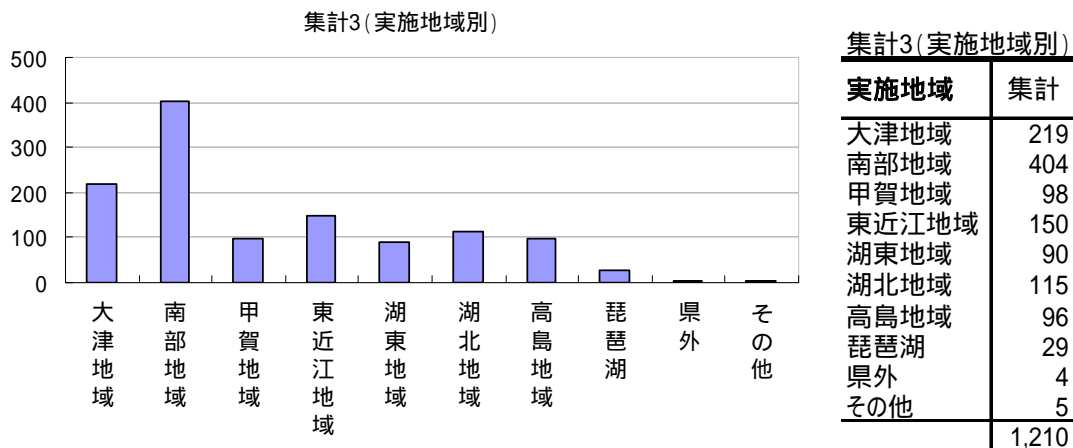
クロス集計2(開催月別×実施場所別)

開催月	屋外				屋内	合計
	(湖・川)	(森・山)	(田畑・野原)	(まち・里)		
4月	7	24	3	3	28	65
5月	15	46	13	14	41	129
6月	18	38	6	5	39	106
7月	35	45	4	9	65	158
8月	38	28	3	2	66	137
9月	14	31	4	6	59	114
10月	14	57	14	5	65	155
11月	18	50	9	12	89	178
12月	12	21	2	5	59	99
1月	11	27	1	3	48	90
2月	7	25	1	2	52	87
3月	4	15		4	27	50
	193	407	60	70	638	1,368

(ウ) 実施地域別の内訳

環境学習に関する催しの実施地域別に見ると、南部地域が404件で最も多く、続いて大津地域(219件)、東近江地域(150件)と続いている。南部地域には琵琶湖博物館や水環境科学館、栗東自然観察の森、びわこ地球市民の森といった環境学習施設が多く立地していることから実施件数も多くなっている。

南部地域の環境学習施設での実施件数は179件であり、環境学習施設が実施した環境学習に関する催しの53%を占める。

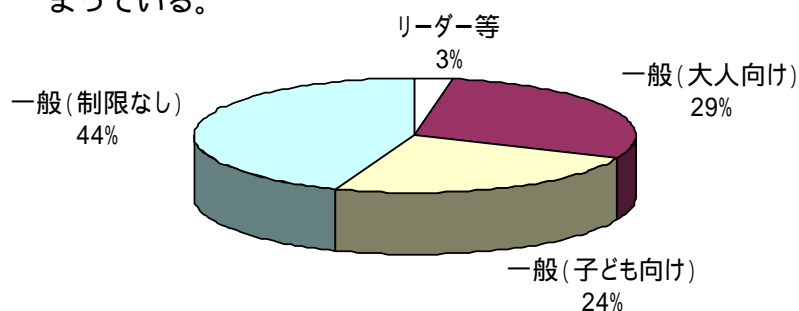


クロス集計3(実施主体別×実施地域別)

実施主体区分	大津地域	南部地域	甲賀地域	東近江地域	湖東地域	湖北地域	高島地域	琵琶湖	県外	その他	合計
行政	106	117	39	48	30	41	13	13	3	3	413
環境学習施設	21	179	46	6	19	27	35	3	1		337
NPO・地域団体	54	39	9	59	25	28	27	5		1	247
企業	8	5	1	2		1	3	2			22
学校	2	3		1	5	1					12
その他	28	61	3	34	11	17	18	6		1	179
	219	404	98	150	90	115	96	29	4	5	1,210

(工) 対象者別の内訳

環境学習に関する催しの対象者別に見ると、一般対象で参加者の年齢などに制限を設けていないものが 534 件と 44%を占め、次いで一般対象で大人向けのものが 348 件、子ども向けが 294 件となっており、リーダー等の養成をねらいとしているものは 34 件にとどまっている。



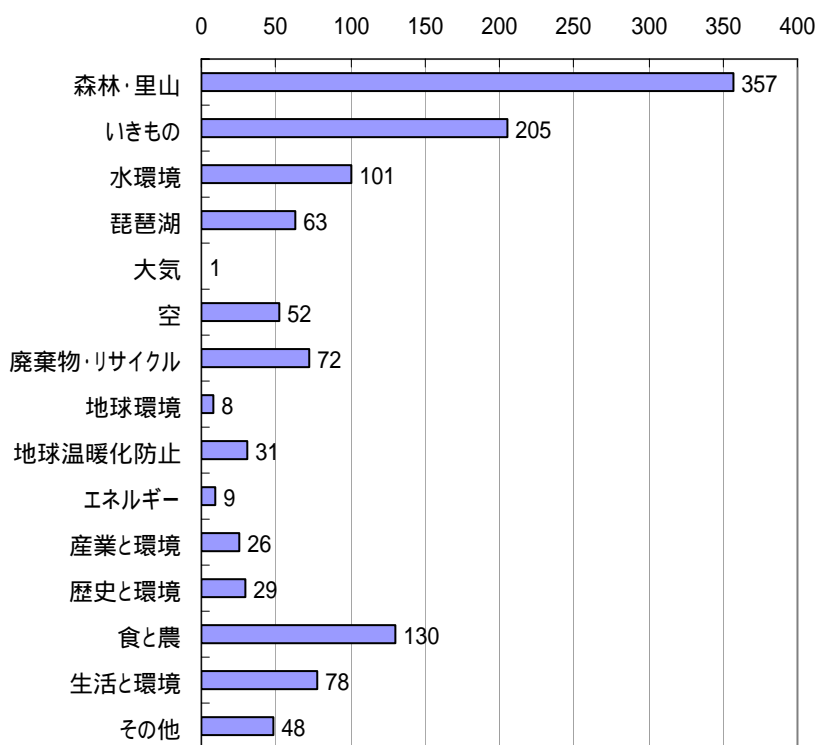
集計4(対象者別)

対象者	集計
リーダー等	34
一般(大人向け)	348
一般(子ども向け)	294
一般(制限なし)	534
	1,210

(オ) テーマ別の内訳

環境学習に関する催しのテーマ別に見ると、森林や里山などについて学んだり、自然の中で観察や体験する催しが 357 件と最も多く全体の 30%を占めている。次いで野鳥や昆虫、魚などの観察など生きものに関する学習や体験が 205 件、農業体験など食と農に関する催しが 130 件、水質や水辺の環境など水環境に関する学習や体験が 101 件などとなっている。

集計5(テーマ別)

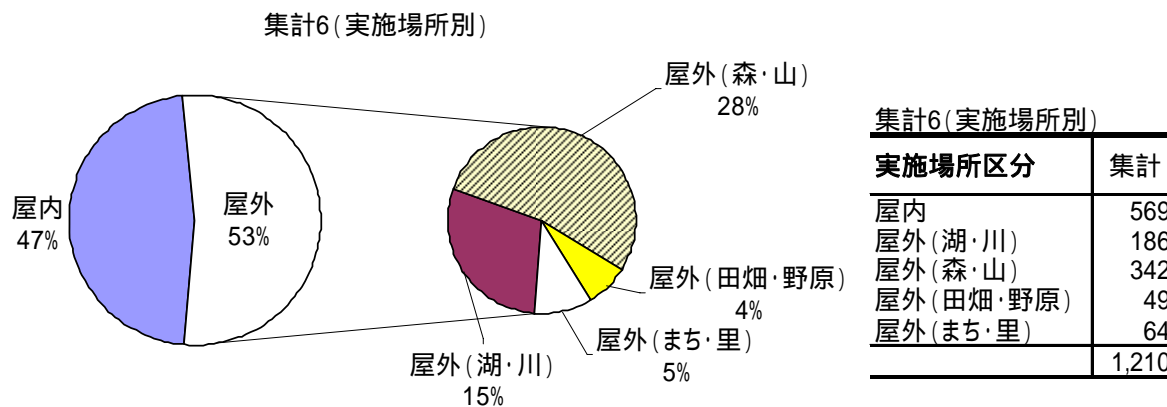


集計5(テーマ別)

環境学習の分野	集計
森林・里山	357
いきもの	205
水環境	101
琵琶湖	63
大気	1
空	52
廃棄物・リサイクル	72
地球環境	8
地球温暖化防止	31
エネルギー	9
産業と環境	26
歴史と環境	29
食と農	130
生活と環境	78
その他	48
	1,210

(カ) 実施場所別の内訳

環境学習に関する催しの実施場所では、屋内が 47%、屋外が 53%と屋外の方が多くなっている。屋外での実施場所別に見ると、森・山が 342 件で全体の 28%と最も多く、次いで湖・川が 186 件で全体の 15%となっている。



(キ) 形態別の内訳

環境学習に関する催しの形態別に見ると、観察・調査が 392 件と最も多く、次いで実習・ボランティアが 289 件、発表・交流・展示が 208 件となっている。観察・調査と実習・ボランティア、ものづくりを合わせた体験系の催しが全体の 65%を占めている。

